

宮本憲一先生講演「オール沖縄の行動に学ぶ」

「大阪革新懇 12・15 文化と講演のつどい」に参加した。大阪革新懇代表世話人で弁護士の西晃さんの開会挨拶、大阪朝鮮歌舞団の歌と踊り、オール沖縄元衆議院議員の仲里利信さんの「沖縄からの報告と訴え」に続いて、宮本憲一先生が標題をテーマに講演した。

講演は前日 14 日の安倍政権による辺野古の海への土砂投入に対する、怒りの言葉から始まった。パワーポイントの最初のスライドを紹介したい。

土砂投入を強行した安倍政権を糾弾

・12月14日11時沖縄県の行政指導も意に介せず土砂投入が行われた。これは無法な暴挙である。

・これによって世界遺産になりうる貴重な環境が失われる。直ちにこれ以上の埋め立ては中止すべきである。

・県の指摘のようにこの地域には活断層があり、マヨネーズ状の軟弱地盤があることが分かり、この対策のためには改めて沖縄県に工事変更の許可が必要である。この工事などを考慮すると、当初の10倍の2兆5500

億円かかるなど不可能な問題が次々と生まれてくる。まだ中止させることは可能だ。

・アジアの平和のためにも巨大軍事基地建設絶対反対の運動は今後もより強く進めなければならない。改めて辺野古基地反対問題とオール沖縄の運動の意義を考え、今後の展望としたい。

講演は「平和・環境・自治」という副題のように、沖縄の歴史的・構造的差別、米軍基地と地方自治、オール沖縄の運動と辺野古問題など、幅広い問題にわたった。最後に、「沖縄に学び、諦めず、勝つまで闘おう！」と。宮本憲一先生のパワーポイントによるパワーある講演から、いつもながら学ぶことが多い。講演の詳細については、また紹介していきたい。

集会参加者がプラスター「土砂投入STOP!」でアピールして閉会となった。宮本先生の隣が仲里利信さん。写真は慌てて前に進み出て撮ったものである。

(2018年12月16日)

